

模擬紙幣で1億円を体感する児童たち
＝多治見市虎溪山町、とうしん学びの丘エール



児童「1億円重たいな」

多治見市で東濃信金「金融教室」

東濃信用金庫の小学生を対象にした「金融教室」が26日、多治見市虎溪山町のとうしん学びの丘エールで開かれ、小学生がお金の大切さを学んだ。

地域貢献活動の一環。同市内の5店舗の職員らが講師となり、共栄小学校の1年～6年の44人が参加した。

「旧500円札は使えるか」「千円札が半分破れたら交換しても使えるか」などのクイズを出題。児童たちは、1億円の重さや、10枚の札の数え方、10分の1の札の重さなど、お金の知識を学んだ。友達と一緒に参加した児童も、2年の蛭谷菜月さんと和木穂実さんは「お札が破れた場合、3分の2以上残っていないと全額交換してくれないことが分かった。お札は大事に扱わないといけない。1億円は重くて持てなかった」と感想を話していた。(高木俊徳)